

都留文科大学における情報教育の現状と提言 — 学生アンケートからの考察 —

The Current Status of Information Technology (IT) Education at Tsuru University and Proposal for the Future : A Consideration Based on a Questionnaire to Students Who Take the IT Courses

君 田 和 子

KIMITA Kazuko

概要

家庭や学校へのコンピュータの普及や携帯電話により、大学入学時にある程度のコンピュータの知識を持った学生が多くなり、その基本的知識レベルや必要とする情報教育への期待はより多様になった。社会生活の中でも様々なコンピュータの活用が必須の技術となり、多くの学生の現状に即するように、基礎をしっかりと学ぶ科目と多様な目的に有意義なソフトの習熟を学ぶ科目の充実が必要になる。都留文科大学の情報科目履修生を対象としたアンケートを通して、その現状とこれからの情報教育への提言を考察する。

Due to the penetration of personal computers and mobile phones at home and school, many students have already had a certain level of knowledge about computers before they enter university. Therefore, their expectation to the Information Technology (IT) Education including its basic knowledge course level has been higher and often varied. Also in a social life, the various ways of practical computer application have become indispensable. In order to cope with such current circumstances, it is imperative for the University to enrich both a basic IT course and a more advanced course by which students can learn useful skills for various purposes. The objective of this paper is to discuss and study the proposal for future IT education by analyzing the current status of the IT education at Tsuru University through the questionnaire result.

1. はじめに

2003年4月から、全国の公立高校で「情報」の授業が必修科目となっている。「情報」の授業は普通高校では「情報A」「情報B」「情報C」の中からの選択制であり、履修の時期や方法は地域・学校によってさまざまである。都留文科大学においては、2006年4月の入学生から、前年度までの「情報処理基礎」(約20クラス)を、「情報処理Ⅰ」(情報リテラシー基礎)、「情報処理Ⅱ」(画像・映像処理)、「情報処理Ⅲ」(データベース作成・操作)、「情報処理Ⅳ」(プレゼンテーション能力の習得)、「情報処理Ⅴ」(Excelを使った統計処理)、「応用情報処理Ⅰ」(HTML, JavaScriptを使ったホームページ作成)、「応用情報処理Ⅱ」(ExcelVBA)の7科目に内容を細分化し、より実践的な活用ができるようなカリ

キュラムで対応することにした。

本稿では、都留文科大学における「情報処理」各科目の受講者（前期）を対象に行ったアンケート結果から、学生の現状と今後の展望をまとめ、その傾向を考察する。

2. 高校での状況

平成 11 年 3 月に定められた学習指導要領では、平成 15 年から中学校では技術・家庭の領域である「情報とコンピュータ」が必須となり、高等学校では普通教科「情報 A」「情報 B」「情報 C」の選択必修となっている。履修の時期や方法は地域や学校に任されており、学校によっては教員の資格・能力や設備の関係で「情報 A」しか選択できない場合もある。「情報」のそれぞれの目標の定義は、以下のとおりである。

「情報 A」：コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに、情報を主体的に活用しようとする態度を育てる。

「情報 B」：コンピュータにおける情報の表し方や処理の仕組み、情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させ、問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための科学的な考え方や方法を習得させる。

「情報 C」：情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解させ、表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する能力を養うとともに、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解させ、情報社会に参加する上での望ましい態度を育てる。

文部科学省の「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」（平成 17 年 3 月 31 日現在）によると、学校のコンピュータの総台数は、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特殊教育諸学校の全体で 1,913,068 台（高等学校で 533,901 台）であり、そのうち、教育用のコンピュータの 1 校あたりの平均設置台数は、全体で 43.2 台であり、高等学校で 107.6 台となっている。教育用コンピュータ 1 台あたりの生徒数は、全体で 8.1 人、高等学校で 6.2 人である。また、高等学校におけるコンピュータ教室の LAN 接続している教室数の割合は 95.1% である。市販の教育用ソフトウェア整備種類は 1 校あたり 7.8 本、教育用以外のソフトウェア整備種類は 7.7 本である。

教員の情報教育に関する研修については、平成 16 年度内に、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特殊教育諸学校の全体で 504,935 人（全教員に対する割合：57.4%）の教員が研修を受けており、そのうち、校内研修を受けた教員は 455,153 人（全教員に対する割合：51.7%）となっている。小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特殊教育諸学校の全教員の中で、コンピュータを操作できる教員の割合は、全体で 94.9%、高等学校で 95.4% であり、コンピュータを使って教科指導等ができる教員は全体で 68.0% であり、高等学校では 55.1% である。

3. アンケートの概要

(1) 2006年度の「情報処理」カリキュラム

科目名	2006年度のテーマ
情報処理Ⅰ	情報リテラシー基礎
情報処理Ⅱ	画像・映像処理 (Photoshop Elements、ムービーメーカー 他)
情報処理Ⅲ	データベース作成・操作 (Access 他)
情報処理Ⅳ	プレゼンテーション能力の習得 (PowerPoint 他)
情報処理Ⅴ	Excelを使った統計処理
応用情報処理Ⅰ	プログラミング1 (HTML, JavaScriptを使ったホームページ作成)
応用情報処理Ⅱ	プログラミング2 (ExcelVBA 他)

* 「情報処理Ⅰ」を受講した学生は他の科目の履修不可

* 「情報処理Ⅰ」以外の科目は2科目まで同年度に履修可能

(2) アンケートの内容 (無記名・「科目名」「クラス」「所属学科」「学年」を記入)

(2)-1 授業開始時アンケート:

「情報処理Ⅰ」

- ・高等学校での科目「情報」の履修状況
- ・アプリケーションソフトの習熟度
- ・来年以後、受講してみたい科目の希望

「情報処理Ⅰ」以外

- ・高等学校での科目「情報」の履修状況
- ・受講を決めた理由
- ・来年以後、受講してみたい科目の希望

(2)-2 授業終了時アンケート: 来年以後、受講してみたい科目の希望

別紙1 平成18年度「情報処理Ⅰ」受講者へのアンケート、

別紙2 平成18年度「情報処理」受講者へのアンケート、

別紙3 平成18年度「情報処理」受講後アンケート 参照)

(3) 実施時期

2006年4月・集中講義期間(8月の3日間)。

第1時限目の授業で「授業開始時アンケート」を実施/回収。

2006年7月～8月。

前期及び集中講義の最終授業時に「授業終了時アンケート」を、実施/回収。

(4) 回答数

「情報処理」全受講者数 : 771人

「情報処理Ⅰ」 : 294人 (前期、集中講義: 164人)

「情報処理Ⅰ」以外 : 477人 (前期: 285人)

授業開始時アンケート回答数 (前期及び集中講義分)

「情報処理Ⅰ」 : 144人

「情報処理 I」以外 : 248 人 合計 : 392 人
 授業終了時アンケート回答数 (前期及び集中講義分)
 「情報処理 I」 : 75 人
 「情報処理 I」以外 : 154 人 合計 : 229 人

4. アンケートの結果分析

4-1. 高等学校での「情報」の履修

「情報」を履修した : 196 人
 「情報」を履修していない : 195 人

高等学校での履修状況を見ると、ほとんどの学生が1年次に「情報A」を履修しているが、中には授業を受けてはいるが、履修時期・科目をあまりはっきり記憶していない学生もいる。(表1 高等学校での履修状況 参照)

表1 高等学校での履修状況

(単位:人)

履修の有無/ 現在の学年	1年	2年	3年	4年	(空白)	計
履修した	177	9	3	3	4	196
履修していない	48	61	44	41	1	195
計	225	71	47	44	5	392

(単位:人)

高等学校での「情報」の履修 科目と学年 (受講者のみ)	1年	2年	3年	(履修学 年不明)	計
情報A	84	19	22	1	126
情報B	15	1	3		19
情報C	5	1	4		10
(科目名不明)	21	6	3	11	41
合計	126	27	32	12	196

4-2. アプリケーションの習熟度

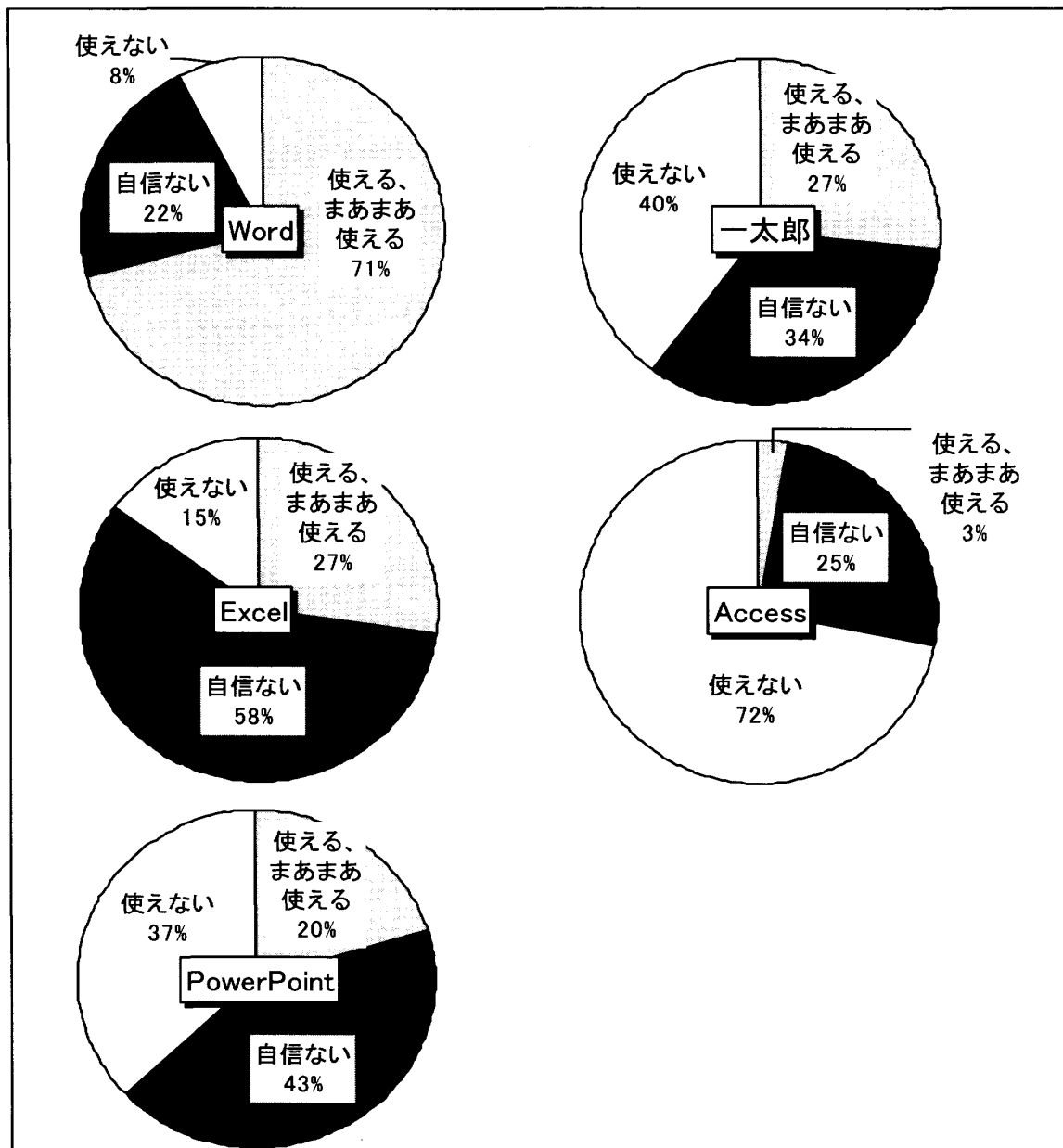
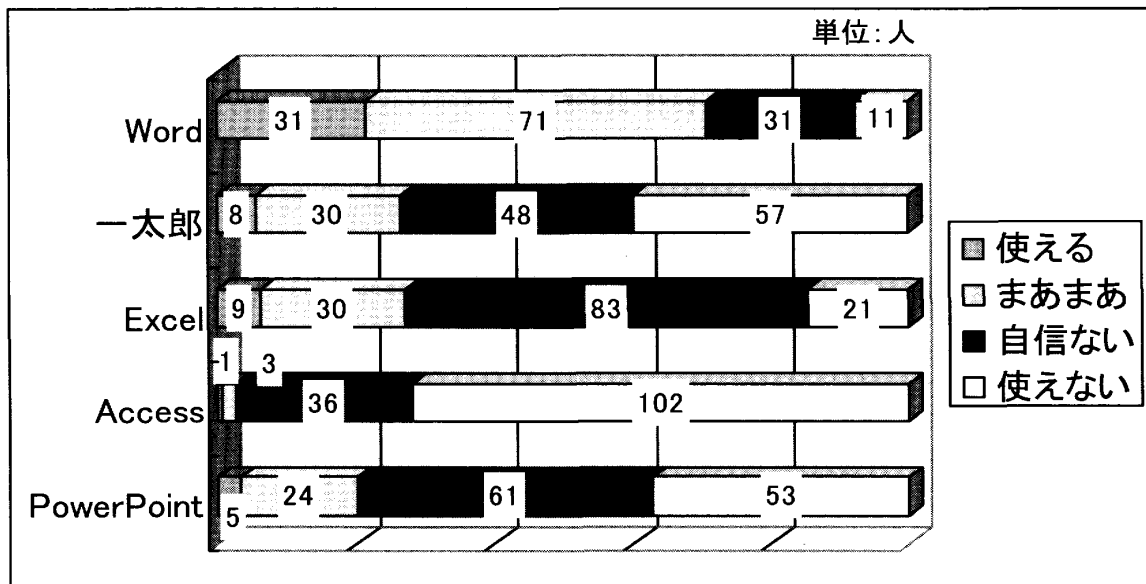
Wordが「使える」「まあまあ使える」と答えた人数が102人(71%)、Excelが「自信がない」と答えた人数が83人(58%)、Accessを「使えない」と答えた人数が102人(72%)という回答が特に目立っている。

表2 アプリケーションの習熟度:「情報処理 I」受講者対象

(単位:人)

ソフト	使える	まあまあ 使える	使える + まあまあ使える	自信ない	使えない	計
Word	31	71	102 (71%)	31 (22%)	11 (8%)	144
一太郎	8	30	38 (27%)	48 (34%)	57 (40%)	143
Excel	9	30	39 (27%)	83 (58%)	21 (15%)	143
Access	1	3	4 (3%)	36 (25%)	102 (72%)	142
PowerPoint	5	24	29 (20%)	61 (43%)	53 (37%)	143

図1 「情報処理 I」受講者のアプリケーションの習熟度



現時点での高等学校の教育用コンピュータの設置台数を見てみると、授業時のハードウェアが決して足りないわけではないと思われるが、高等学校における「情報」科目の履修時間数と、コンピュータを使って教科指導等ができる教員数の割合が55.1%であることも関係しているのではないかと推測される。

(表2 アプリケーションの習熟度、

図1 「情報処理Ⅰ」受講者のアプリケーションの習熟度 参照)

4-3. 来年以降の受講希望：授業開始時

「情報処理Ⅰ」(情報リテラシー基礎)においては、「画像・映像処理」への関心度が極めて高く、「プレゼンテーション能力の習得」と「Excelを使った統計処理」がそれに続いている。これは単純に、使用する主なソフトと使用目的の『認知度』の差であると思われる。デジタルカメラやカメラ付き携帯電話の普及により、画像・映像処理に関しては、現在でも行っているまたは積極的に方法を知りたい、という希望が多く、プレゼンテーションや統計処理はレポート作成等への知識や技術の必要性が周知されているからではないかと思われる。「HTML、JavaScriptを使ったホームページ作成」や「ExcelVBA」は、知識・技術の使用用途についての関心が低いというよりも、「それが

表3 「情報処理Ⅰ」受講者の来年以降の受講希望科目

テーマ	希望科目名	希望	率
画像・映像処理 (Photoshop)	「情報処理Ⅱ」	66人	36%
データベース作成・操作 (Access)	「情報処理Ⅲ」	18人	10%
プレゼンテーション (PowerPoint)	「情報処理Ⅳ」	49人	27%
Excelを使った統計処理	「情報処理Ⅴ」	31人	17%
プログラミング1 (HTML、JavaScript)	「応用情報処理Ⅰ」	15人	8%
プログラミング2 (ExcelVBA)	「応用情報処理Ⅱ」	5人	3%

図2 「情報処理Ⅰ」受講者の来年以降の受講希望科目

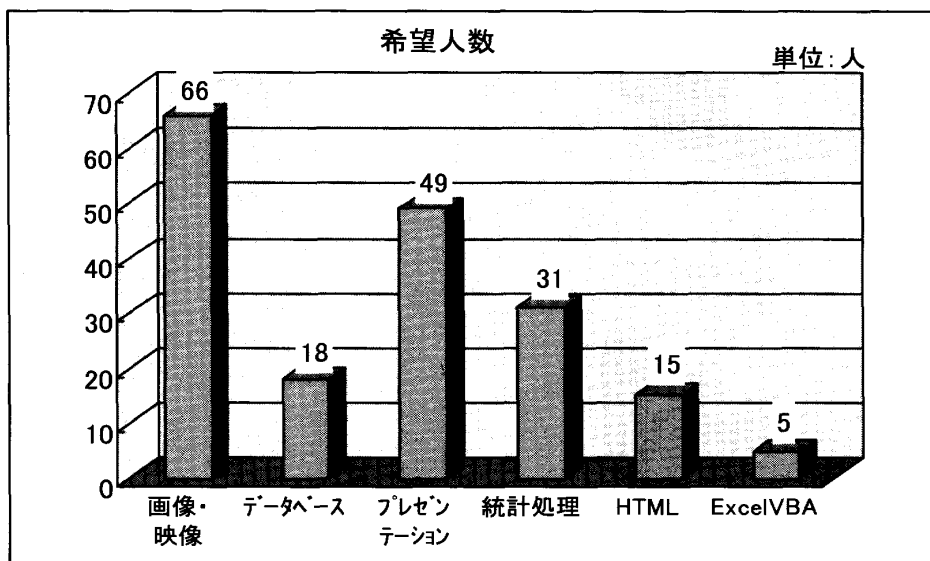


表 4 「情報処理 I」受講者の来年以降の受講希望科目（習熟度別）

(単位：人)

Word の習熟度	画像・映像	データベース	プレゼンテーション	統計処理	HTML	ExcelVBA
使える、まあまあ	43	15	35	27	11	3
自信ない	16	2	11	4	3	1
使えない	7	1	3		1	1
合 計	66	18	49	31	15	5

一太郎の習熟度	画像・映像	データベース	プレゼンテーション	統計処理	HTML	ExcelVBA
使える、まあまあ	17	5	14	10	4	2
自信ない	21	7	17	8	6	1
使えない	27	6	18	13	5	2
合 計	65	18	49	31	15	5

Excel の習熟度	画像・映像	データベース	プレゼンテーション	統計処理	HTML	ExcelVBA
使える、まあまあ	17	1	13	9	5	2
自信ない	37	14	28	21	7	1
使えない	11	3	8	1	3	2
合 計	65	18	49	31	15	5

Access の習熟度	画像・映像	データベース	プレゼンテーション	統計処理	HTML	ExcelVBA
使える、まあまあ	3		1			
自信ない	15	5	15	6	4	2
使えない	47	13	33	25	11	3
合 計	65	18	49	31	15	5

PowerPoint の習熟度	画像・映像	データベース	プレゼンテーション	統計処理	HTML	ExcelVBA
使える、まあまあ	11	3	12	5	3	2
自信ない	27	11	22	18	8	2
使えない	27	4	15	8	4	1
合 計	65	18	49	31	15	5

どのようなものなのかわからない」「わからないから自分にはかなり難しそう」と思われている傾向がある。

(表 3 「情報処理 I」受講者の来年以降の受講希望科目、

図 2 「情報処理 I」受講者の来年以降の受講希望科目、

表 4 「情報処理 I」受講者の来年以降の受講希望科目（習熟度別） 参照)

「情報処理 I」以外の受講者の中でも画像・映像処理への希望が高いが、他の ExcelVBA を除いた各科目への希望者数は、ほぼ同じような率である。ExcelVBA に関しては、用途の具体的なイメージがわかないためではないかと推測される。

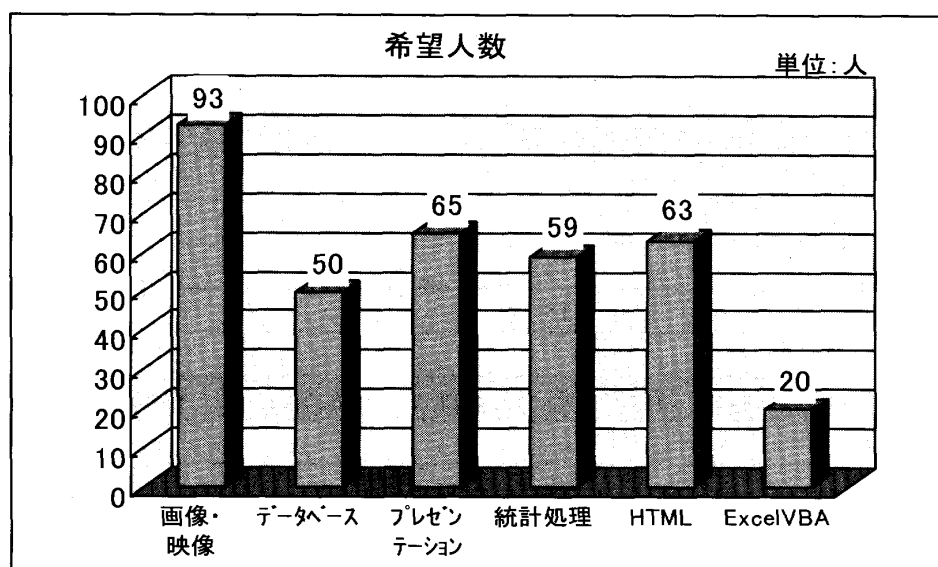
(表 5 「情報処理 I」以外の受講者対象：授業開始時、

図 3 「情報処理 I」以外の受講者の来年以降の受講希望科目 参照)

表5 「情報処理Ⅰ」以外の受講者対象（現在複数科目履修中を含む）：授業開始時

テーマ	希望科目名	希望	率
画像・映像処理（Photoshop）	「情報処理Ⅱ」	93人	27%
データベース作成・操作（Access）	「情報処理Ⅲ」	50人	14%
プレゼンテーション（PowerPoint）	「情報処理Ⅳ」	65人	19%
Excelを使った統計処理	「情報処理Ⅴ」	59人	17%
プログラミング1（HTML、JavaScript）	「応用情報処理Ⅰ」	63人	18%
プログラミング2（ExcelVBA）	「応用情報処理Ⅱ」	20人	6%

図3 「情報処理Ⅰ」以外の受講者の来年以降の受講希望科目



4-4. 授業終了時の受講希望の変化

「情報処理Ⅰ」（情報リテラシー基礎）では、通常講義ではほとんど変化は見られなかったが、集中講義では、「プレゼンテーション能力の習得」と「HTML、JavaScriptを使ったホームページ作成」への希望が急増している。これは、通常講義と集中講義という講義形式の違いも影響しているものと思われる。

「情報処理Ⅱ」（画像・映像処理）では、「プレゼンテーション能力の習得」「Excelを使った統計処理」と「HTML、JavaScriptを使ったホームページ作成」が増え、特に「Excelを使った統計処理」への希望の増加が顕著である。

「情報処理Ⅲ」（データベース作成）においては、「プレゼンテーション能力の習得」「Excelを使った統計処理」への希望者がそれぞれ減少している。Accessによるデータベース作成とExcelの統計処理に関しては、用途・作成技術等に共通したものがあるため、希望者が減少したものと思われる。

「情報処理Ⅳ」（プレゼンテーション能力の習得）においては、あまり変化は見られなかった。

「情報処理Ⅴ」（Excelを使った統計処理）においては、「HTML、JavaScriptを使ったホームページ作成」と「ExcelVBA」への希望の増加が顕著である。

「応用情報処理Ⅰ」（HTML、JavaScriptを使ったホームページ作成）においては、「画

像・映像処理」への希望がかなり増えている。

情報リテラシー基礎の集中講義での「HTML、JavaScriptを使ったホームページ作成」を希望する学生の増加が目立ち、ホームページ作成を履修した学生が「画像・映像処理」への希望が増える等、身に付けた知識を更に深めよう、という希望が見られる。また、当初はあまり親しみのなかった「プレゼンテーション能力の習得」や「Excelを使った統計処理」の有用性を、授業により知ったことが、受講希望の変化の大きな要因であると思われる。希望が増えた科目やその率は、現在受講中の科目によって、かなり差異が見受けられる。

(表6 来年以降の受講希望科目：授業終了時、

図4 受講前後の来年以降の受講希望科目の変化 参照)

表6 来年以降の受講希望科目（各科目より1クラスずつ抜粋）：授業終了時

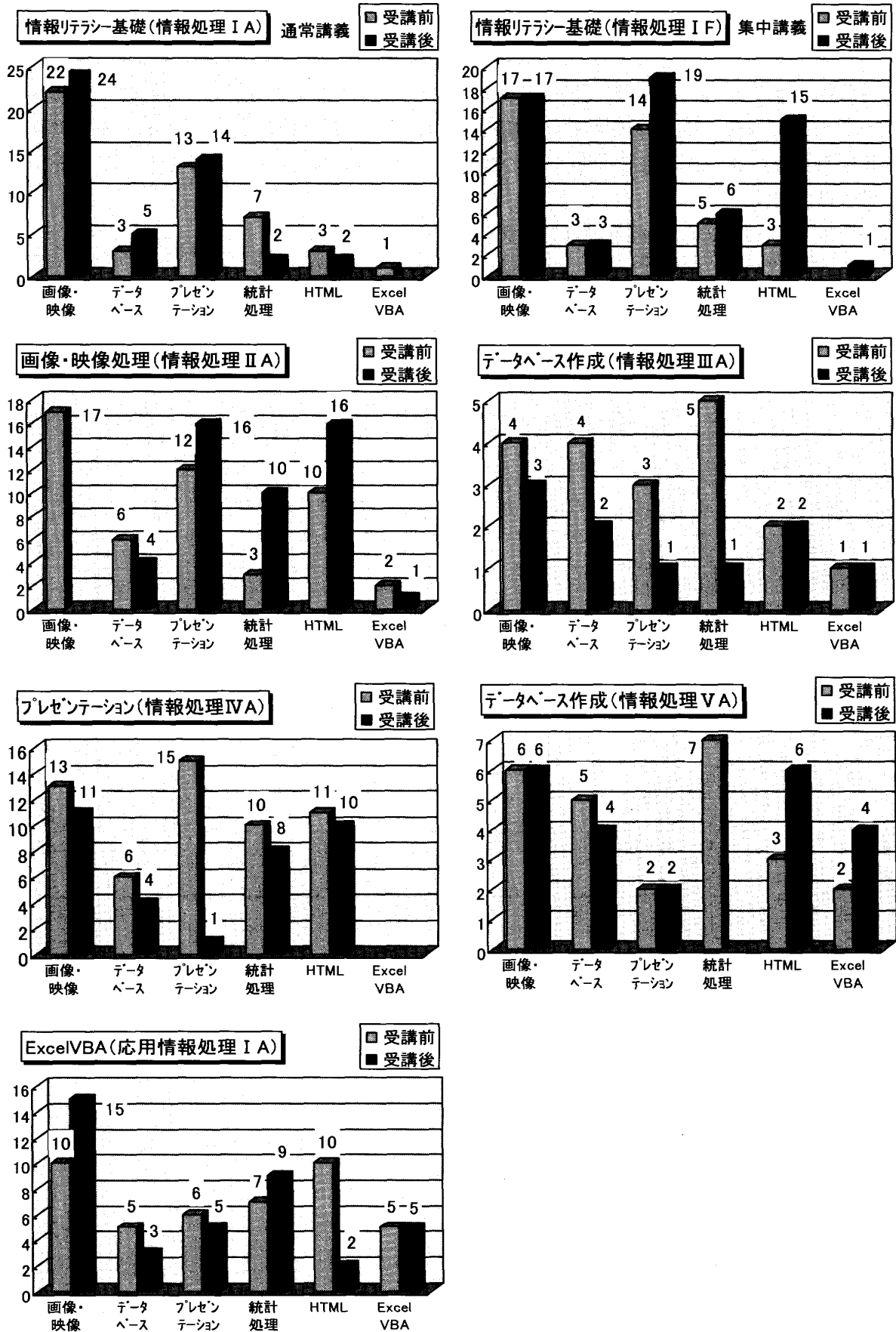
(単位：人)

科目名		画像・映像	データベース	プレゼンテーション	統計処理	HTML	ExcelVBA	計
「情報処理IA」 (通常講義)	受講前	22	3	13	7	3	1	49
	受講後	24	5	14	2	2		47
「情報処理IF」 (集中講義)	受講前	17	3	14	5	3		42
	受講後	17	3	19	6	15	1	61
「情報処理IIA」 ： 画像・映像	受講前	17	6	12	3	10	2	50
	受講後		4	16	10	16	1	47
「情報処理IIIA」 ： データベース作成	受講前	4	4	3	5	2	1	19
	受講後	3	3	1	1	2	1	10
「情報処理IVA」 ： プレゼンテーション	受講前	13	6	15	10	11		55
	受講後	11	4	1	8	10		34
「情報処理VA」 ： 統計処理	受講前	6	5	2	7	3	2	25
	受講後	6	4	2		6	4	22
「応用情報処理IA」 ： HTML, JavaScript	受講前	10	5	6	7	10	5	43
	受講後	15	3	5	9	2	5	39
受講前 計		101	40	84	59	53	14	351
受講後 計		91	35	69	52	63	13	323

* 情報処理II・IV・Vで、受講後にそれぞれの科目の希望がないのは、受講中の科目なので、回答から除外されているためである。

図4 受講前後の来年以降の受講希望科目の変化

(単位：人)



5. これからのカリキュラム編成への提言

5-1. 大学入学時点での習得レベルの予想

高等学校までの情報教育が学習指導要領における目的をある程度達している、それらを受けた学生が大学へ入学している前提であれば、基本的なコンピュータ操作に関する教育はあまり必要ないと考えられる。

しかし、高等学校までの「情報」の授業により、すべての基礎知識の習得が約束されているわけではなく、入学時点では、全員が必要な知識・技術を習得していることは保証されていない。十分な基礎知識を持った学生と、ほとんど扱えない学生も従来以上に混在し、その知識・技術にはかなりの差異がある。その結果、今年度は当初予定していた情報リテラシー基礎のクラス数では基礎レベルの需要に応えきれず、基礎に不安を持つ学生の多さを再認識した。来年度以後においても、引き続き基礎知識の復習を含めた情報リテラシー基礎科目の需要は減少することはなく、その知識の差は、現状より更に拡大することが予想される。

また、多くの学生が、自分の知識のレベルの判断基準に不安があり、履修科目の選択に迷う傾向があるので、今後は自己の知識・技術レベルの確認ができる共通したシステムの確立も必要である。

5-2. より高度な知識・技術の習得

すでに十分な基礎知識を習得している学生については、前年度までは限定された科目の履修により知識を深める方法しか選択の余地はなかったが、今年度より、目的別に細分化され、多様なソフトの使用に対する知識・技術を得ることが可能となった。また、講義の内容が細分化・高度化されたことにより、知識・技術の習得による目的がより具体的になり、知識の広がりにも比例して、興味が多方面に広がった様子も確認できる。

現状においては、コンピュータ設置教室の自由利用時に、常駐の学生指導員が機器の操作やソフトの使用法についての質問に答える体制を整えているが、今後は細分化したカリキュラムの充実とともに、知識に不安のある分野の講習会、あるいは e-Learning を利用した自習できる反復学習体制の整備なども有益であると考えられる。

5-3. コンピュータで教科指導のできる教員の養成

本学では初等教育学科のみならず、他の学科においても教職免許を取得する学生が多数いる。高等学校までの情報教育を充実させるためにも、教職免許を取得するまでに、コンピュータ利用技術の習得に限らず、さまざまな分野への活用や、ネットワーク犯罪に巻き込まれないための必要な知識・技術を持った教員を養成する必要があると考える。自分自身が深い知識を持つだけでなく、それを自由に活用でき、伝えることができる教員の養成のためには、次のような知識の習得が必要である。

- ・ コンピュータの仕組みやネットワーク利用法について、ネットワークを利用した犯罪の防止について、正確で深い知識を持ち、わかりやすい言葉で指導できる。
- ・ 情報教育の分野に限らず、さまざまな科目でコンピュータを活用できる。
- ・ 学校運営全体の中でコンピュータを活用し、出欠・成績管理・情報伝達において、合理化や簡素化を図ることができる。

5-4. カリキュラムの開講状況と来年度以後への提言

今年度の情報処理カリキュラム編成については、下記の2点に重点をおいている。

- ・情報リテラシーの基礎の反復
- ・基礎以上の知識・技術の習得

科目名と開講状況		クラス数	コマ数
情報処理Ⅰ	情報リテラシー基礎	7	3.5
情報処理Ⅱ	画像・映像処理	6	3.0
情報処理Ⅲ	データベース作成・操作	2	1.0
情報処理Ⅳ	プレゼンテーション能力の習得	3	1.5
情報処理Ⅴ	Excelを使った統計処理	4	2.0
応用情報処理Ⅰ	HTML, JavaScriptを使ったホームページ作成	2	1.0
応用情報処理Ⅱ	ExcelVBA	2	1.0
情報メディア演習		1	1.0

*「情報処理Ⅴ」のうち2クラス(0.5コマ×2)は社会学科の情報専門演習と同時限開講である

現在の問題点としては、以下の点が挙げられる。

- ・情報リテラシー基礎の開講クラス数不足による、受講希望への対応の難しさ
- ・1年間に受講可能な科目数の制限(2科目まで)
- ・知識習得レベル別クラスの開講の必要性
- ・演習助手がない場合の1クラスの人数

情報リテラシー基礎科目に関しては、初心者に対する基本的なコンピュータ利用技術の習得と同時に、正確な知識習得が認識でき、また他の人に対してもわかりやすい指導ができる学生を育成するためにも、受講を希望する学生が早い時期に学ぶことのできる体制が望ましい。そのためには、知識習得レベル別のクラス編成が不可欠である。現在は「情報処理Ⅰ」を受講した場合は、同一年度にそれ以外の科目の受講はできないようにしている。「情報処理Ⅰ」以外でも、受講希望に対応できるクラス数に制限があり、1年間に2科目までしか受講できない制限を設けているが、知識習得レベルによるクラス編成が可能となれば、1年間の受講数の制限はなくすことができると考えられる。また、現在はどの科目にも演習助手がついていないが、演習助手がない場合には、より少ない人数での授業が、受講者の多様な目的や知識レベルの差異に対応するためにも理想である。他大学においては、40人以上のクラスの場合、演習助手がついている例が多い。

今後の開講コマ数への提言としては、情報リテラシー基礎科目の1クラス以上(0.5コマ)の増加と、より高度な知識・技術の習得のために、演習科目の1コマの増加が必要である。情報リテラシー基礎科目の開講・受講時期としては、入学時の前期に受講できるのが、学生の受講希望に対応でき、もっとも望ましいと言える。しかし、これには情報教育用の教室設備の問題もあるので、同時に検討しなければならない。

6. おわりに

都留文科大学では、2004年度までは、「情報処理基礎」という科目で情報基礎科目を20クラス開講し、ほとんどの入学生が1年次に受講していた。2005年度には、より高度な

目的を持った科目も開講されたが、一般的には基礎以上の知識は自習による習得が基本であった。

情報および情報通信技術が、社会全体の中で大きな比重を占め、大学の教育全体の中でも、コンピュータの有効な活用が必須の技術となっていることは明らかである。学生が自由に利用できるコンピュータの学内設置数も数年前と比較すると大幅に増えており、入学時より学生はインターネットを問題なく利用している。しかし、そこで得た情報を他に利用するときに必要な知識（ネットワーク犯罪、著作権をはじめとする利用時に守らなければならない法律、他のソフトへのデータの取り込み方、印刷時の設定方法 など）となると、基本的なことを知らずに偏った利用技術しか持っていない学生が多く見受けられる。

基本的な知識および技術を習得している学生に対しては、知識をより深める機会を増やすとともに、基本的な知識・技術が習得できていない学生への対応、という受講者の目的や知識レベルの差異に対応したカリキュラム体制が、今後も重要な課題となっている。特に、情報リテラシー基礎科目の1クラス以上の増加が必要なため、今回の調査結果を基にして、他の開講科目との調整が必要である。また、より高度な目的に対応した内容の演習科目の1コマの増加が必要である。今後も、学生の知識レベルの現状と目的意識の調査と、社会の需要にあわせた使用機器やソフトの整備についても、引き続き調査研究・提言に努めていきたい。

引用文献

- 1) 文部科学省 「高等学校学習指導要領」(平成 11 年 3 月)
- 2) 文部科学省 「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」(平成 17 年 3 月 31 日現在)

(別紙1)

平成18年度「情報処理Ⅰ」受講者へのアンケート

情報センター運営委員会

今後の情報教育への取り組みの参考としたいので、アンケートに協力をお願いします。

科目名	「情報処理Ⅰ」		クラス	A	B	C	D	E	F	G
所属学科	初等教育	国文	英文	社会	比較文化	その他				
学年	1	2	3	4	その他					

該当するものを○で囲んでください。

質問1：あなたは高校で科目「情報」を履修しましたか？

・はい ・いいえ（質問3へ）

質問2：履修した科目名、学年と時期を教えてください。

科目名： ・情報A ・情報B ・情報C

学年： ・1年 ・2年 ・3年 (学期)

質問3：次のアプリケーションソフトについて教えてください。

ソフト	使える	まあまあ	自信ない	知らない
WORD				
一太郎				
Excel				
Access				
PowerPoint				

質問4：この授業に期待することは何ですか？

--

質問5：次の情報科目の中で、あなたが来年以後受講してみたい科目は何ですか？

○印	科目名	テーマ（今年度の場合、今後は変更する可能性あり）
	情報処理Ⅱ	画像・映像処理（Photoshop Elements,ムービーメーカー他）
	情報処理Ⅲ	データベース作成・操作（Access 他）
	情報処理Ⅳ	プレゼンテーション能力の習得（PowerPoint 他）
	情報処理Ⅴ	Excelを使った統計処理
	応用情報処理Ⅰ	プログラミング1（HTML,JavaScriptを使ったホームページ作成）
	応用情報処理Ⅱ	プログラミング2（ExcelVBA 他）

(別紙2)

平成18年度「情報処理」受講者へのアンケート

情報センター運営委員会

今後の情報教育への取り組みの参考としたいので、アンケートに協力をお願いします。

科目名						クラス	
所属学科	初等教育	国文	英文	社会	比較文化	その他	
学年	1	2	3	4	その他		

該当するものを○で囲んでください。

質問1：あなたは高校で科目「情報」を履修しましたか？

・はい ・いいえ (質問3へ)

質問2：履修した科目名、学年と時期を教えてください。

科目名： ・情報A ・情報B ・情報C

学年： ・1年 ・2年 ・3年 (学期)

質問3：あなたがこの授業を受講する事を決めた理由は何ですか？(複数選択可能)

該当する項目の前に○印をつけて下さい。

<input type="checkbox"/>	内容に興味があったから	<input type="checkbox"/>	画像(写真)処理をしてみたい
<input type="checkbox"/>	シラバスを見て	<input type="checkbox"/>	時間が空いていたから
<input type="checkbox"/>	Excelの知識を深めたい	<input type="checkbox"/>	友達に勧められたから
<input type="checkbox"/>	Accessの知識を深めたい	<input type="checkbox"/>	就職対策として
<input type="checkbox"/>	PowerPointの知識を深めたい	<input type="checkbox"/>	情報関係の資格取得のため
<input type="checkbox"/>	ホームページを作成したい	その他(自由に記入してください)	
<input type="checkbox"/>	映像(動画)処理をしてみたい		

質問4：次の情報科目の内、あなたが既に履修申請したか、受講してみたい科目はありますか？

○印	科目名	テーマ(今年度の場合、今後は変更する可能性あり)
<input type="checkbox"/>	情報処理Ⅱ	画像・映像処理(PhotoshopElements、ムービーメーカー他)
<input type="checkbox"/>	情報処理Ⅲ	データベース作成・操作(Access他)
<input type="checkbox"/>	情報処理Ⅳ	プレゼンテーション能力の習得(PowerPoint他)
<input type="checkbox"/>	情報処理Ⅴ	Excelを使った統計処理
<input type="checkbox"/>	応用情報処理Ⅰ	プログラミング1(HTML、JavaScriptを使ったホームページ作成)
<input type="checkbox"/>	応用情報処理Ⅱ	プログラミング2(ExcelVBA他)

質問5：この授業に期待することは何ですか？

--

(別紙3)

平成18年度「情報処理」受講後アンケート

今後の情報教育への取り組みの参考としたいので、アンケートに協力をお願いします。

科目名						クラス	
所属学科	初等教育	国文	英文	社会	比較文化	その他	
学年	1	2	3	4	その他		

該当するものを○で囲んでください。

この授業を終了して、来年度以後に別の情報処理科目を受講してみたいですか？

もし、希望があるようでしたら、該当科目名の前に印を付けてください。(2科目まで可)

○印	科目名	テーマ (今年度の場合、今後は変更する可能性あり)
	情報処理Ⅱ	画像・映像処理 (PhotoshopElements、ムービーメーカー他)
	情報処理Ⅲ	データベース作成・操作 (Access 他)
	情報処理Ⅳ	プレゼンテーション能力の習得 (PowerPoint 他)
	情報処理Ⅴ	Excelを使った統計処理
	応用情報処理Ⅰ	プログラミング1 (HTML、JavaScriptを使ったホームページ作成)
	応用情報処理Ⅱ	プログラミング2 (ExcelVBA 他)